

新たに名古屋で見つかった猛毒菌ミカワクロアマシイグチ(仮)

吹春 俊光

2003年8月23日、愛知県西尾市で、西尾きのこ会を主宰しておられる中條長昭さんから千葉県立中央博物館にきのこの寄贈がありました(FB-33033 (CBM) で保存)。鳥取の長沢先生が現在記載中のきのこでミカワクロアマシイグチ(三河黒網脚猪口、*Tylopilus* sp.)、^{注1)} 従来、イグチ科には毒成分をもつものが少なく、おなかをこわす程度のドクヤマドリやバライロウラベニイロガワリ *Boletus rhodocarpus* が知られていました。本種はマウスの動物実験で猛毒を示すことが判明し、名古屋大学理学部のグループにより研究され、2つの新規物質、ボレチン「N-γ-glutamyl boletin」及びイミン化合物「2-butyl-1azacyclohexene iminium salt」が報告されました。^{注2)} 標本の図からは特徴がわかりづらいのですが、モエギアマシイグチやオオクロニガイグチに外部形態は類似しており、肉は赤変後黒変するそうです。「マウスに対して神経性の急性毒性を示し致死作用がある」^{注1)} とのことで、各地で発見される可能性もあり注意が必要です。

注1) 「日本の毒きのこ」(学研、2003)(本号35頁)に写真入りで紹介されている。



写真は2点ともミカワクロアマシイグチ 外部形態はモエギアマシイグチやオオクロニガイグチに類似する

注2) Watanabe Reiko et al. 2002. A novel dipeptide, N-γ-glutamyl boletin, and a cyclic iminium toxin from the mushroom *Tylopilus* sp. (Boletaceae). Tetrahedron letters 43: 6501-6504.